

■7月10日

PEACH(LCC)、関空—成田線、3,790円から発売

ピーチ・アビエーションは9日、2013年冬季ダイヤ(2013年10月27日～2014年3月29日)の運賃をした。

10月27日に新規就航する関空—成田線は、ハッピーピーチ運賃を3790円から16,990円に設定し、10日0時より発売を開始した。

因みにジェットスター・ジャパンの同路線の運賃は3,290円から15,990円とほぼ同額。

(PEACH プレスリリース)7/9

<http://www.flypeach.com/jp/ja-jp/corporate/pressreleases.aspx> (-> <http://www.flypeach.com/jp/ja-jp/corporate/pressreleases.aspx>)

(ジェットスター・ジャパン HP)

http://www.jetstar.com/jp/ja/planning-and-booking/fares/~/_media/8120CB352E9E474AB62C145636331934.ashx (-> http://www.jetstar.com/jp/ja/planning-and-booking/fares/~/_media/8120CB352E9E474AB62C145636331934.ashx)

国交省、新千歳空港滑走路、ILS双方向化事業再開、2015年度中にも供用開始

国交省は、現在中断している新千歳空港全滑走路のILS双方向化事業を2014年度から再開することを決め、今年夏の来年度予算概算要求に盛り込む方針を固めた。順調なら2015年度中にも完成、供用開始となる予定だ。

完成すると、同空港では2本の滑走路の双方向でILSが整備されることになり、風向きに関わらず、悪天時の精密進入が可能になる。特に冬場の就航率向上や遅延解消が期待される。

(日刊航空)7/9

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

国交省、2014年、羽田空港昼間時間3万回増、1時間当たり80回へ引き上げ

国交省は、2014年3月末からの羽田空港昼間時間帯(6時～23時)国際線6万回化に向けて、昼間時間帯における1時間あたりの最大発着回数を現行74回(出発・到着とも37回)から80回(同40回)へ引き上げる。これにより、国際線の就航を年間3万回増やす。年間処理能力は、昼間時間帯で40.7万回、深夜早朝時間帯を含め44.7万回に拡大、羽田空港再拡張当初計画での最終形となる。日刊航空が報じた。

また、同省は、来春の増枠後における羽田空港の運用ルールの中で、昼間時間帯では、これまで通りA380型機と747-8型機による就航を禁止することを定めた。

(日刊航空)7/10

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

新千歳空港、1-6月、外国人入国者、前年同月期比22%増

札幌入国管理局がまとめた新千歳空港の1～6月の外国人入国者数は22万1400人と、前年同月期に比べ22%増えたことが分かった。円安とバンコク線の新規就航などが入国者増へ繋がった。

また、6月は前年同月比41%増の4万700人で、増加は5カ月連続となる。6月に新千歳空港に入港した海外定期便は前年同月比で16機多い247機、海外旅客チャーター便は6機多い15機だった。

(日経)7/9

http://www.nikkei.com/article/DGXNASFC09008_Z00C13A7L41000/ (-> http://www.nikkei.com/article/DGXNASFC09008_Z00C13A7L41000/)

スカイマーク、石垣—那覇線就航、各社運賃引き下げ始まる

スカイマークは10日、石垣—那覇便で1日4往復8便の運航を開始する。使用機材はボーイング737—800型(177席)。往復8便の提供座席数は1416席で、同社を含む全提供座席数6188席の約23%のシェアを占める。

当日購入可能な普通運賃は片道5000円。同社の低価格運賃設定に伴い、JTA、全日空などの他社も3日前購入で4800円から、1日前購入で4900円からの運賃を設定。スカイマークは21日前予約チケットで3900円とさらに引き下げを図った。

一方、低価格競争が起こったため、JTA、ANAの当日購入可能な離島割引運賃は現行の9400円から、1万6100円と従来の水準に戻る。

八重山毎日によると、市議会が「この運賃設定では、離島住民の移動に大きな支障を来すことはもとより、生活を圧迫する要因となることは明らか」として県に減免制度の強化や新たな制度・施策の導入、両航空会社には運賃低減を求め要請決議を全会一致で可決。今月中旬に要請する予定だという。

(八重山毎日)7/9

<http://www.y-mainichi.co.jp/news/22822/> (-> <http://www.y-mainichi.co.jp/news/22822/>)

マンダリン航空、台中—新千歳、7月チャーター便8便運航

中華航空の子会社マンダリン航空は7月3日、台中空港と新千歳空港を結ぶチャーター便の運航を開始した。台中—新千歳間の直行便は初めて。4日おきに31日までに計8往復する。8月以降の運航は未定。

使用機材は中華航空のボーイング737—800型(158席)を使い、マンダリン航空の乗員が運航。台湾の旅行会社がチャーターするもので、初回の3日は133人、2回目(7日)は140人が利用した。

また、中華航空も同月、休止していた台湾南部の高雄—新千歳間のチャーター便を3年ぶりに再開した。使用機材はボーイング737—800型を使い、10月末まで週2往復する

(北海道新聞)7/10

<http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/478602.html> (-> <http://www.hokkaido-np.co.jp/news/economic/478602.html>)

HIS、タイ設立チャーター会社、成田からの就航日8月4日に延期

エイチ・アイ・エスがタイで設立した国際線チャーター便運航会社「アジア・アトランティック・エアラインズ」は、成田—バンコク線のプログラムチャーターを、すでに発表されている7月19日～9月29日の就航日を、8月4日に延期すると発表した。運航用機材リースの調達に遅延が生じ、タイにおける運航者証明書の取得審査が予定期日までに間に合わなかった事が理由だという。

なお、7月27日就航予定の関西～バンコク線について変更は無い。

(日刊航空)7/10

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

ガルーダ・インドネシア航空、2014年春、羽田—ジャカルタ線新規開設

ガルーダ・インドネシア航空は3日、2014年春に新路線の羽田—ジャカルタ線を開設すると発表した。6月に行われた日本とインドネシアの航空当局間協議で、羽田の昼間時間帯(6—23時)で合意した1日1往復の枠を利用する。インドネシアの経済成長を受け拡大するビジネス需要を中心に旅客の取り込み増を狙う。

現在、同社は、羽田からはデンパサール線を運航しており、ジャカルタ線の就航で2路線となる。また使用機材はボーイング777—300ER型を導入し、約20年ぶりにファーストクラスを復活させる計画だ。

(日刊工業新聞)7/4

<http://www.nikkan.co.jp/news/nkx1120130704ceam.html> (-> <http://www.nikkan.co.jp/news/nkx1120130704ceam.html>)